

令和2年度第2回刈谷市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和2年10月23日（金）午後1時30分～午後2時10分

2 場 所

刈谷市役所 701会議室

3 議 題

(1) 刈谷市教育大綱の改定について

4 出 席 者

市 長	稲垣 武
教育委員会 教育長	金原 宏
教育委員会 委員（教育長職務代理者）	石田 芳加
教育委員会 委員	鶴田 英孝
教育委員会 委員	浅井 優

5 欠 席 者

教育委員会 委員	小川 耕示
----------	-------

6 会議構成員以外の出席者及び事務局

教育部長	宮田 孝裕
教育総務課長	柴田 桂児
教育総務課 課長補佐兼施設係長	山田 芳久
教育総務課 総務係長	安藤 美奈
学校教育課長	木野 昌孝
生涯学習課長	塚本 吉郎
スポーツ課長	加藤 幹雄
企画調整監兼企画政策課長	伊藤 雅人
企画政策課 課長補佐兼政策推進係長	平野 元章
企画政策課 経営管理係長	見田 裕子
主事（書記）	荒井 秀行

7 傍 聴 人

1名

1 市長あいさつ

刈谷市長 稲垣 武

皆様、こんにちは。市長の稲垣でございます。

本日は大変ご多忙の中、今年度2回目の総合教育会議にお集まりをいただき、誠にありがとうございます。

10月も下旬となりまして、朝晩は少し肌寒く感じられるようになってまいりましたので、お体に気を付けていただきたいと思います。

さて、こういうご挨拶の中で新型コロナウイルスの話はいつも出てくるわけですが、最近は少し落ち着いてきていますが、刈谷市でも感染された方が89人となっており、ポツポツと感染された方がいるわけですが、経済対策として、国の方が「Go To Travel」や「Go To Eat」ということで、テレビ等で報道されております。刈谷市におきましても、プレミアム商品券ということで、1億5千万円分のプレミアム、全体で経済効果が16億5千万円の事業を現在進行中でございます。2回目である3.5億円の換金が終わりました、刈谷市内でそれなりの経済効果が生まれるのではないかと考えております。

また、海外に目を向けてみると、アメリカ大統領選挙の最中でございますけれども、トランプ大統領が新型コロナウイルスに感染し、ヨーロッパに目を向けると、一日に確認された感染者が2万7千人近くにのぼった国があり、再び非常事態宣言が発令されるということも言われております。

そんな中、先ほども申し上げたとおり、刈谷市においては、少し落ち着きを取り戻してきているところではありますけれども、秋冬を迎えると、インフルエンザとの同時流行が考えられます。本市では、9月議会におきまして、15歳以下のお子さんのインフルエンザ予防接種1回につき1,000円を補助していくことを提案させていただき、議会の方で議決をいただきました。10月15日からお子さんが予防接種を受けるということになっておりますので、こういう機会を使って、感染予防にご協力いただければと思っております。

また、65歳以上の高齢者の方につきましては、毎年1,000円の負担でインフルエンザの予防接種を受けていただいていたのですが、愛知県が今年に限ってこの1,000円をみていただけるということです。

本日は、第2回の総合教育会議ということで、第2次にあたる新たな教育大綱を策定していくのですが、このコロナ禍であったり、少子化であったり、という中で、年明けに小中学校へタブレット端末を導入していきます。今後の「育てたい子ども像」を議論いただき、新たな教育大綱策定のために、皆様には忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

本日は、よろしく願いいたします。

2 議 題

(1) 第2次刈谷市教育大綱の策定について

- ・第2次刈谷市教育大綱の素案を資料1により説明

<第2次刈谷市教育大綱素案に対する意見・感想>

石田委員

前回の会議を踏まえ、肉付けをしていただき、ありがとうございます。

全体をしっかりと読ませていただきましたが、この内容が1つでも多く子どもに伝われば、個の能力を引き出すことに繋がると感じました。また、多様性を受け入れて、選択肢を増やすことができれば、視野を広げることに結び付くと思いました。

私は、「礎」が好きで、この「礎」があるからこそ、さらに素敵な教育が実現でき、子どもたちを地域で育てていけるのではないかと感じました。子どもを育てる上で、個性を育てることが大事だと思っています。多様性を受け入れる雰囲気が広がるといいなと思います。

鶴田委員

まず、「育てたい子ども像」の中の「未来」という単語が大変良いと思いました。子どもたち＝未来ということで、生きる力を身に付けてもらいたいという思いが一目でわかる子ども像になっていると思います。子どもたちが認め合って、信頼し合って、支え合う。この様子を温かく見守り育てていく地域、こういう土壌を大切にしていってほしいが前半の「共に生き」で感じられました。

また、失敗をおそれずに、失敗を積み重ねて、克服していく。こういう過程が未来を創造するステップになるということを実際に子どもたちが理解し、実践できる、という風になってもらいたいと思います。

私は、市内で町工場をやっていますが、「未来を創造する」という部分で、努力を積み重ねて新しいことに挑戦するということは、ものづくりに携わる者として、非常に心に響きます。日本のものづくりの中核の1つであり、先端技術をけん引する刈谷市で育つ子ども像として、大変相応しいと思います。

また、今回の大綱で、新しい生活様式に触れていることも素晴らしいと思います。昨今の環境変化は急で、その変化も良いものばかりではありません。その中で環境変化を否定的に捉えるばかりではなく、柔軟に対応していくことを新しい取組として考え、それを大綱に反映していくことで、変化に先手を打って良い影響をもたらすのではないかと思います。さらに、我々がこういう姿勢を子どもたちに見せることによって、子どもたちの成長にも繋がっていくのではないかと思います。

今回の大綱は、冊子として大変すっきりしており、本編、資料編の構成で、「育てたい子ども像」が前半で明確に表現されていて、そこに至る想いや考え方も明瞭に伝えることができると思います。また、「育てたい子ども像」のイメージ図が明確でわかりやすいと感じました。

浅井委員

学校訪問を実際に行っている中で、以前から大綱の内容を学校にて取り込んでいる上で、それを踏まえて発展させていく内容になっていると感じました。「礎」にある「感染症等に対応した持続的な学校運営」と書いてあるとおり、時代に対応した内容になっていて、今後の社会情勢の変化にシなやかに対応していければいいなと思います。

「礎」のところで、土壌と種という表現をしています。種を子どもたちとするのであれ

ば、土壌はいろいろな環境になると思います。ここには書かれていませんが、子どもたちと接する先生方も心や身体が健康であって、余裕を持って子どもたちと接することができれば、子どもたちへの教育をさらに発展させることができるのではないかと思います。

金原教育長

2点について、お話をさせていただきます。1つは「礎」について、2つ目は「育てたい子ども像に」についてです。

これまで長く教員生活を送っていますが、刈谷の良さを感じています。特に学校、家庭、地域の連携の強さ、確かさをいろいろな場面で感じてきました。また、家庭や地域の方々の優しさや思いやりにもたくさん触れてきました。本当に刈谷はいいまちだと感じています。

このような環境が子どもたちの心を豊かにして、自分自身を高めていこうとする、その気持ちを育てていると思っています。

今回の大綱では「礎」ということで元気・笑顔・希望のまちづくりが大切にされて、その中で、愛情、優しさ、思いやりにあふれたまち、そして学校、家庭、地域が連携して子どもたちを見守るまち、教育環境が整っているまちとなっており、これらを目指していくことに刈谷のよりよい未来を感じます。

そして、2つ目につきましては、「共に生き、未来を創造する子ども」であります。

他者を受け入れる、周囲の人と手を取り合いながら共に生きていく。また、子どもたち自身が自分の将来、刈谷の未来に向かって創造する。共生の時代を見据えるとともに、刈谷の地で育まれてきた創造が大切にされた子ども像だと思っています。刈谷のこれからの教育に大きな夢を持つことができる子ども像だと思っています。

刈谷市長

ちょうど新たな大綱の策定期間がコロナ禍であり、ここ10か月ぐらいですか、続いているわけですが、いろいろなメディアでも変化したもので、戻るものもあれば、戻らないものもあると言われていた中で、今後どうなっていくのか、想像がなかなかつかないのですが、今までと違って、個人を大切に、個人が中心となって考えることに少しウエイトがいくのかなと思ったりしています。

しかし、人間は人の間と書くとおり、個人では何もできないので、やはり人間関係の中で子どもたちが育っていく。それには生きる力、強い意志が必要だろうと思っています。

「育てたい子ども像」の説明の中で、「周囲と手を携え、前向きに切り開いていく」というフレーズが印象的で、人間社会において大切になっていくのだろうと思います。

子どもには、何でも興味を持って、いろいろなことにチャレンジしていく姿勢を特に持つて欲しいと思います。その中で、何をやるにしても創造する、工夫する、そんな気持ちを持っていただきたいと思っています。

先ほど、浅井委員が先生方の話をされており、重要ではないかと思いました。

浅井委員

私自身、子どもを育てるに当たって、自分に余裕がないと子育てってきついなと感じることがあります。自分に余裕がないと子どもを怒ってしまうこともあります。自分に余裕があると、一歩引いて子どもの話を聞いてあげることができます。先生も同様でないかと思っており、他の仕事に追われているとじっくり子どもに向き合うことができない、先生の視野が狭くなるおそれがあり、そのしわ寄せが子どもにいてしまうのではないかという思いもあります。子どもたちが豊かに育つためには、先生方の心も健やかで豊かであって初めて、大らかで余裕を持った対応ができるのではないかと思います。

石田委員

先生とお話をしていると、悩んでいる方もいるのかなと思うときがあります。4月からスクール・ほっと・アシスタントを導入していただいて、学習指導員2名とスクール・サポート・スタッフが配置され、学校を訪問していると本当に助かっているとのことでした。継続していけるといいなという思いと、学校現場に来ていただく地域の方々に教員のサポートをしていただくような環境づくりも必要になってきているのかなと思います。

刈谷市長

人的環境もそうですし、自然環境も今年の夏はものすごく暑くて、特に夏休みにコロナの影響で出校してもらいましたが、たまたま刈谷は全小中学校に空調が整備されていたのでよかったです。人的なこともハード的なことも子どもたちにとって良い環境が必要だと思います。

地域の方が学校に協力していただく場面は、例えばどういうものがありますか。

金原教育長

地域の懇談会を定期的に行っているところもあります。そこには民生委員さんや地域の地区長さんなどに集まっていただいて、学校運営にご意見いただくこともありますし、また、図書ボランティアなど、ボランティアとして地域の方々に助けていただいています。学校に対して、地域の方々がご協力してくださることが、刈谷の良さであり、素晴らしい環境にあると思います。

鶴田委員

刈谷は地域があつたかく、かなり先生方のサポートをしていただいているという印象を受けています。先ほどの教育長の話にありました、民生委員さんなどが集まれる会においては、かなり突っ込んだ話もされていると聞いています。実際の各家庭に事情や今のお子さんの状況、その後のフォローに至るまで情報を共有して、地域全体で育てる姿勢がどこの学校区にもあるという印象を受けておりますので、先生は一人ではなく、地域でタッグを組んでやっているという環境をこれからも維持し、より発展させていくともっと余裕を持って、皆で同じ方向を向いて子どもたちを育てていけるのではないかなと思います。

刈谷市長

今後の策定スケジュールは事務局から説明がありますが、パブリックコメントにかけていきますので、この素案で進めていってもよろしいでしょうか。

一同異議なし

- ・ 第2次刈谷市教育大綱策定スケジュールを資料2により説明

3 その他

第3回総合教育会議 令和3年2月17日（水）開催予定